

県民の食の安全・安心に関する意識調査結果

平成16年3月

石川県食品安全対策室

目 次

調査目的	1
調査の概要	1
調査結果	1
(1) 回答者属性	1
(2) 食の安全・安心に対する意識	2
(3) 食品の表示について	5
(4) 農薬について	7
(5) トレーサビリティシステムについて	9
(6) 食の安全・安心確保に必要なこと	11

県民の食の安全・安心に関する意識調査結果

・調査目的

近年の県内外での食を巡る問題の発生を踏まえ、石川県では、食の安全・安心施策推進の指針となる「食の安全・安心の確保に関する基本方針」を策定(平成16年2月)し、食の安全・安心の確保と県民の食に対する不安・不信の払拭を図ることとした。

この基本方針では、食の安全・安心を確保するために県が実施すべき生産から消費に至るまでの様々な施策の方向性を明らかにしているが、今回、広く県民を対象に、食の安全・安心に対する意識、食品の表示、農薬、トレーサビリティシステム等についての調査を実施し、本県における食の安全・安心確保の具体的な取り組みの推進に資する。

・調査の概要

- 1 調査対象 石川県在住の成人男女 3,000人(うち県政モニター120人)
- 2 調査方法 郵送書面調査
- 3 実施期間 平成16年2月27日～3月12日
- 4 有効回答数 1,573人(有効回答率 52.4%)

・調査結果

(1) 回答者属性

性別・年代区分別

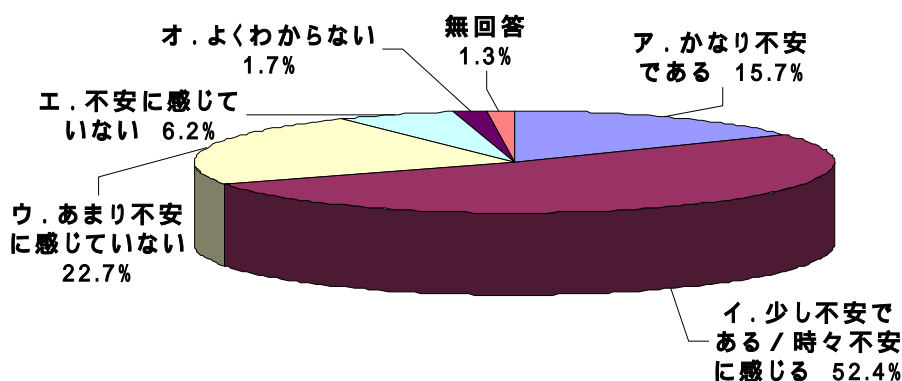
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	合計
男	10	42	137	215	241	205	850
	1.2%	4.9%	16.1%	25.3%	28.4%	24.1%	100.0%
女	16	82	121	229	165	110	723
	2.2%	11.3%	16.7%	31.7%	22.8%	15.2%	100.0%
合計	26	124	258	444	406	315	1573
	1.7%	7.9%	16.4%	28.2%	25.8%	20.0%	100.0%

性別では、男性54.0%、女性46.0%となっている。

年代別では、20歳代1.7%、30歳代7.9%、40歳代16.4%、50歳代28.2%、60歳代25.8%、70歳代20.0%となっており、20歳代・30歳代が少ない年齢分布となっている。

(2) 食の安全・安心に対する意識

(2) - あなたは、日常の生活において食品に不安を感じていますか。自分の気持ちに最も近いものを1つだけお選びください。

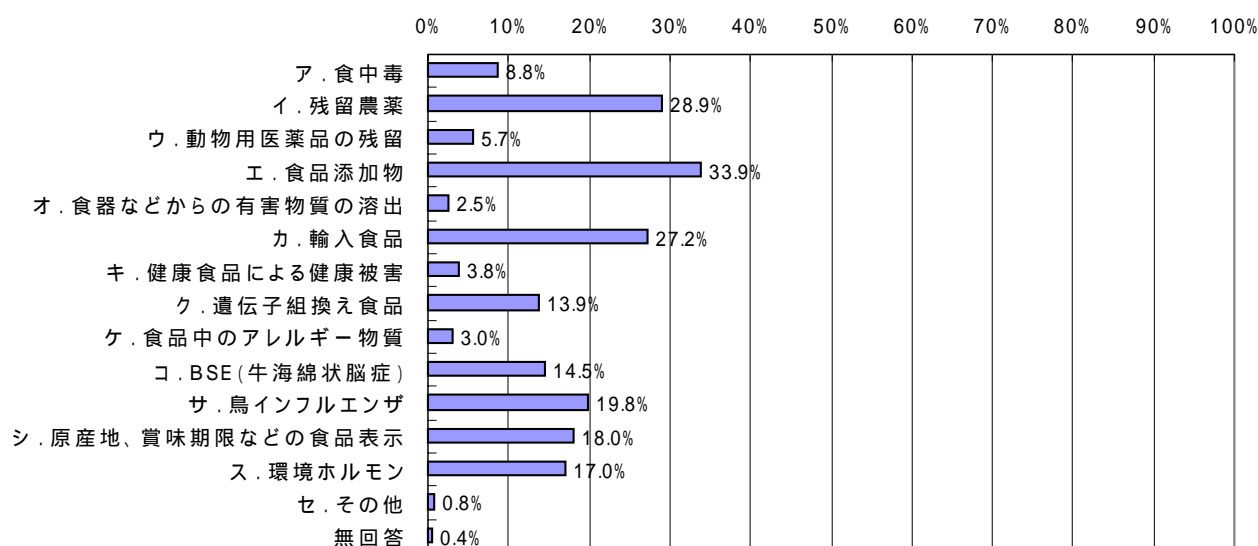


「かなり不安である」、「少し不安である / 時々不安を感じる」を合わせると、約7割(68.1%)の高い割合となっており、多くの方が不安を感じていると答えている。

男女別では、女性の方が不安を感じていると答えた人が多く、「かなり不安である」、「少し不安である / 時々不安を感じる」の合計は、8割(80.1%)に達している。一方、男性は6割弱(57.9%)で、やや少なくなっている。

また、年代による大きな違いはみられないが、70歳代以上では、「かなり不安である」、「少し不安である / 時々不安を感じる」と答えた人は、約5割強(52.7%)にとどまっている。

(2) - ア・イと回答した方にお伺いします。特に不安を感じていることはどのようなことですか。(3つまで選択可)

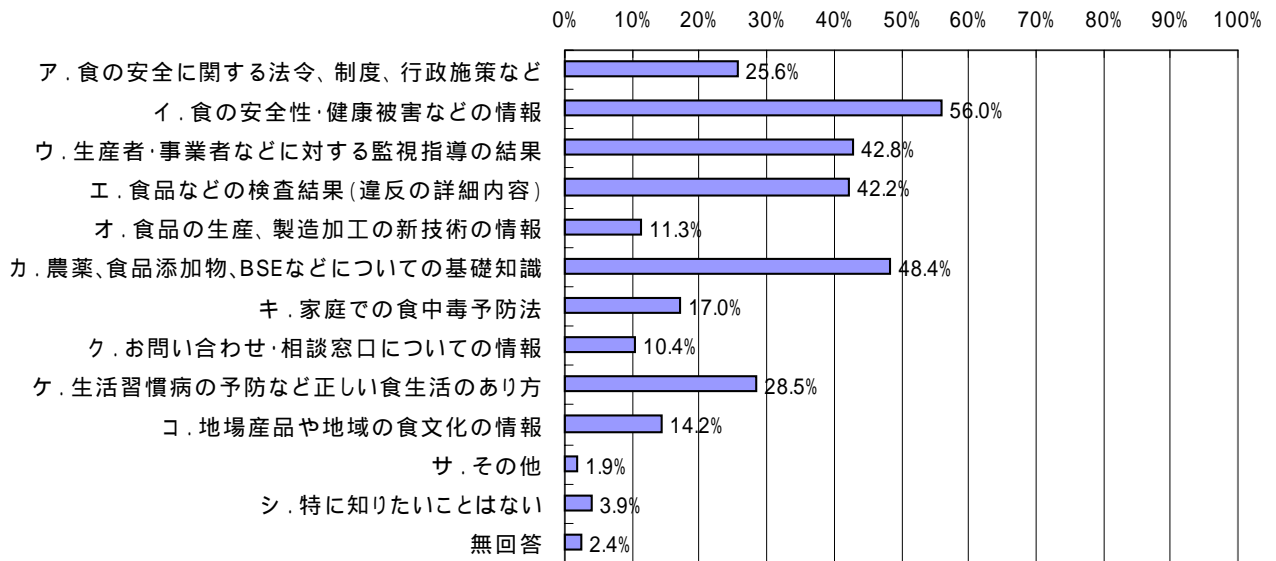


注)有効回答者数を100とする。

(2) - の設問で「かなり不安である」、「少し不安である / 時々不安を感じる」と回答した人が、特に不安を感じていることは、「食品添加物」、「残留農薬」、「輸入食品」が比較的高い割合を占め、続いて、「鳥インフルエンザ」、「原産地、賞味期限などの食品表示」、「環境ホルモン」、「BSE(牛海綿状脳症)」の順となっている。

男女別では、いずれの項目も女性の割合が高く、年代別のバラツキは比較的小さい。

(2) - 食の安全に関して、もっと知りたいと思うことは何ですか。あてはまるものをいくつかもお選びください。

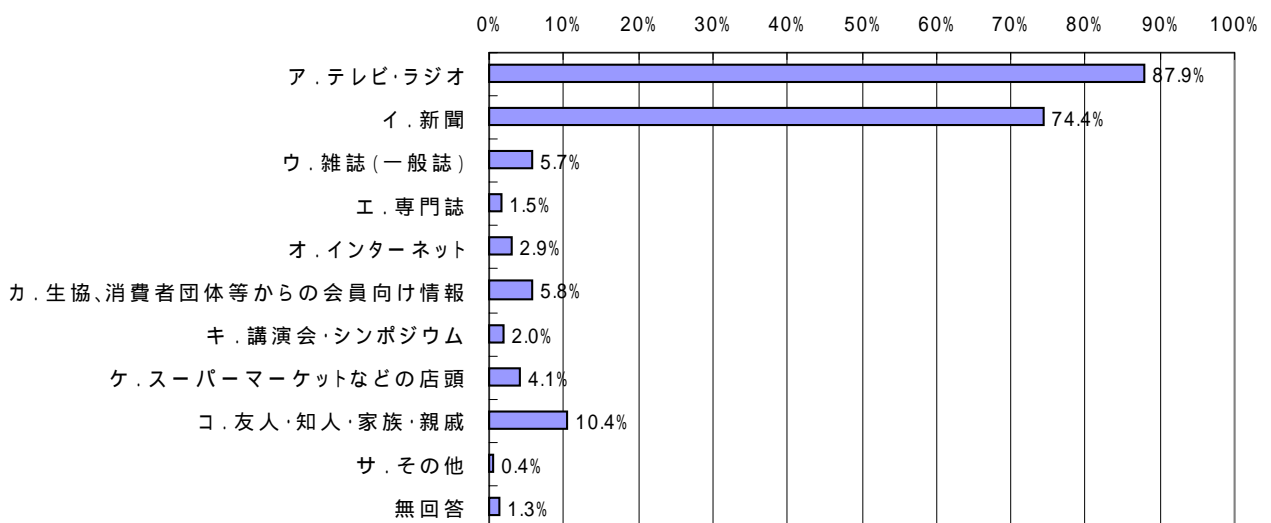


注) 有効回答者数を100とする。

「食の安全性・健康被害などの情報」、「生産者・事業者などに対する監視指導の結果」、「食品などの検査結果(違反の詳細内容)」を知りたい、また、「農薬、食品添加物、BSE などについての基礎知識」を身につけたいと答えた人が多い。

年代別では、「食の安全性・健康被害などの情報」がいずれもトップとなっており、回答数は少ないが、20歳代での「生活習慣病の予防など正しい食生活のあり方」の50.0%が目立っている。

(2) - 食の安全・安心に関する情報は、ふだん主にどこから得られていますか。(2つまで選択可)

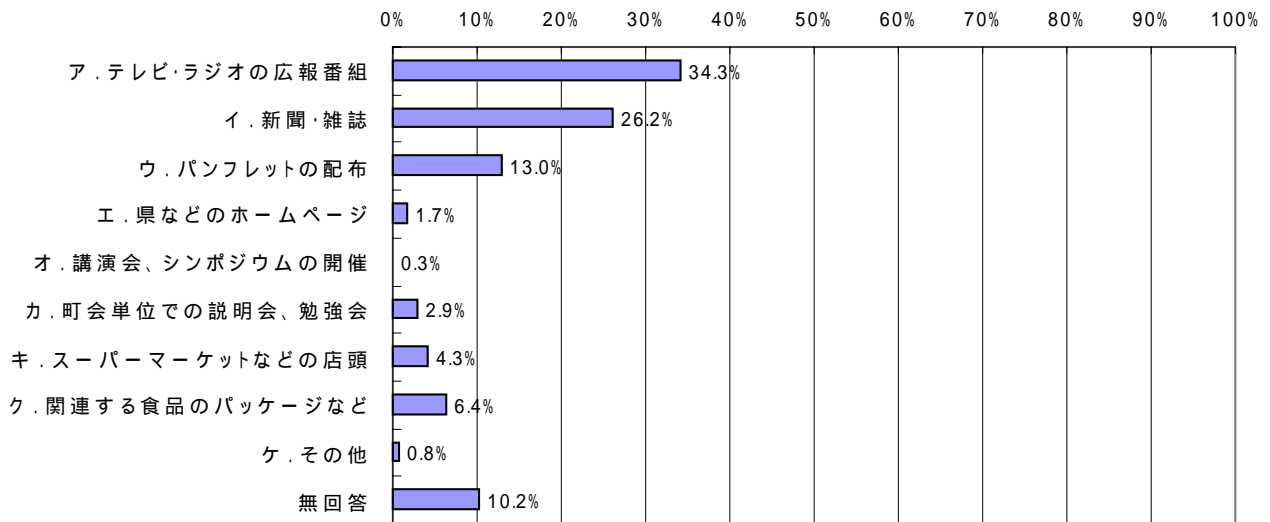


注) 有効回答者数を100とする。

男女、年代を問わず、マスメディアの利用が圧倒的に多く、全体では、「テレビ・ラジオ」が9割強、「新聞」も7割強となっている。

それ以外では、20・30歳代の「インターネット」9.3%、女性の「生協、消費者団体等からの会員向け情報」10.0%の利用が特徴としてあげられる。

(2) - 食の安全・安心に関わる情報は、どのような方法で提供されるのがあなたにとって最も望ましい(利用しやすい)ですか。1つだけお選びください。



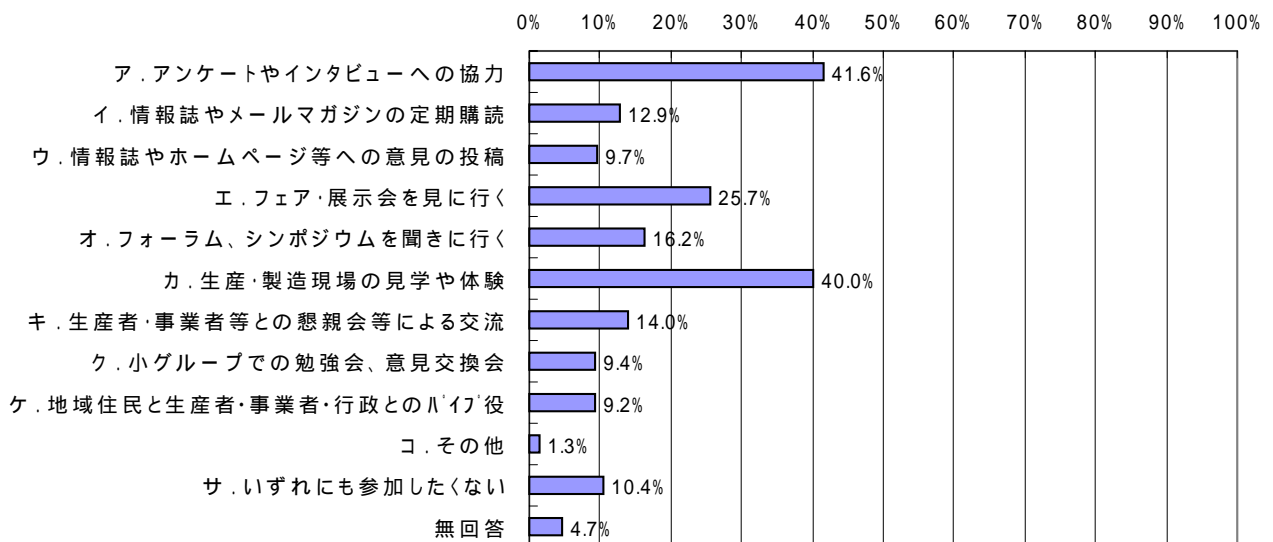
注)有効回答者数を100とする。

情報を受け取る方法としては、(2)-と同じく「テレビ・ラジオの広報番組」(34.3%)、「新聞・雑誌」(26.2%)など、マスメディアを挙げた人が多く、次いで、「パンフレットの配布」(13.0%)の順となっている。

このほかでは、女性の「関連する商品のパッケージなど」10.1%、「スーパーマーケットなどの店頭」5.5%が目立っている。

(2) - 食の安全・安心の確保のために、生産者・事業者(加工・販売等)・消費者・行政の関係者が、情報や意見交換を行い、相互理解を深めることが大切といわれています。

下記のうち、ご自分で実際に行っても良い・参加してもよいと思うものをいくつでもお選びください。

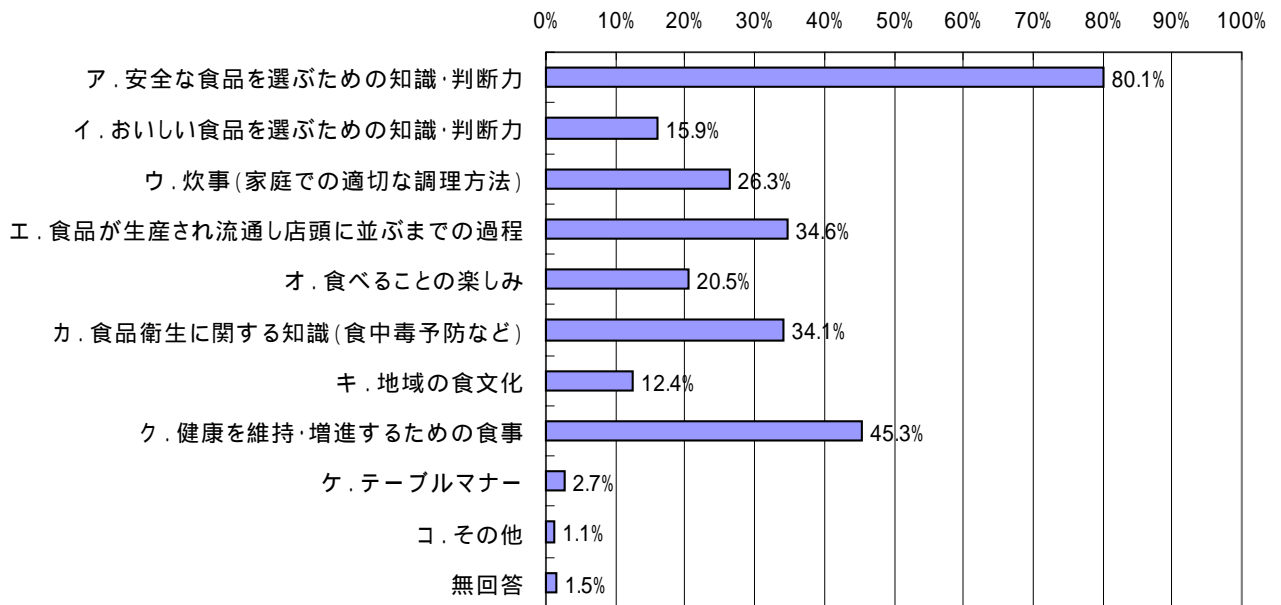


注)有効回答者数を100とする。

第1位の「アンケートやインタビューへの協力」は、若年層ほど多く、また、第2位の「生産・製造現場の見学や体験」は年代が上がるほど多い傾向となっている。

次いで、「フェア・展示会を見に行く」となっており、20・30歳代では、「情報誌やホームページ等への意見の投稿」が他の年代に比べ多くなっている。

(2) - これからの食育(食に関する教育)において、特に大切だと思うことは何ですか。(3つまで選択可)



注)有効回答者数を100とする。

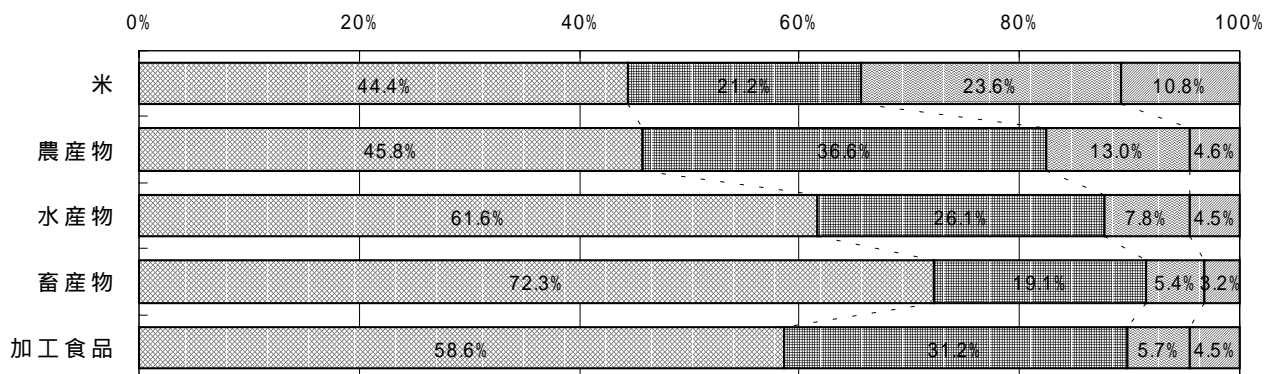
男女・年代を問わず、「安全な食品を選ぶための知識・判断力」が最も多い。また、「健康を維持・増進するための食事」についても、どの年代も関心が高い。

「地域の食文化」は全体では12.4%であるが、女性より男性、20・30歳代で割合が高くなっている。

(3) 食品の表示について

(3) - 食品を購入される際、食品表示を確認していますか。それぞれの食品についてお答えください。

米 農産物(米以外の青果物など) 水産物(近海物・養殖など)
 畜産物(牛肉・牛乳など) 加工食品



図ア. ほぼいつも確認している イ. 時々確認している ウ. 確認していない 無回答

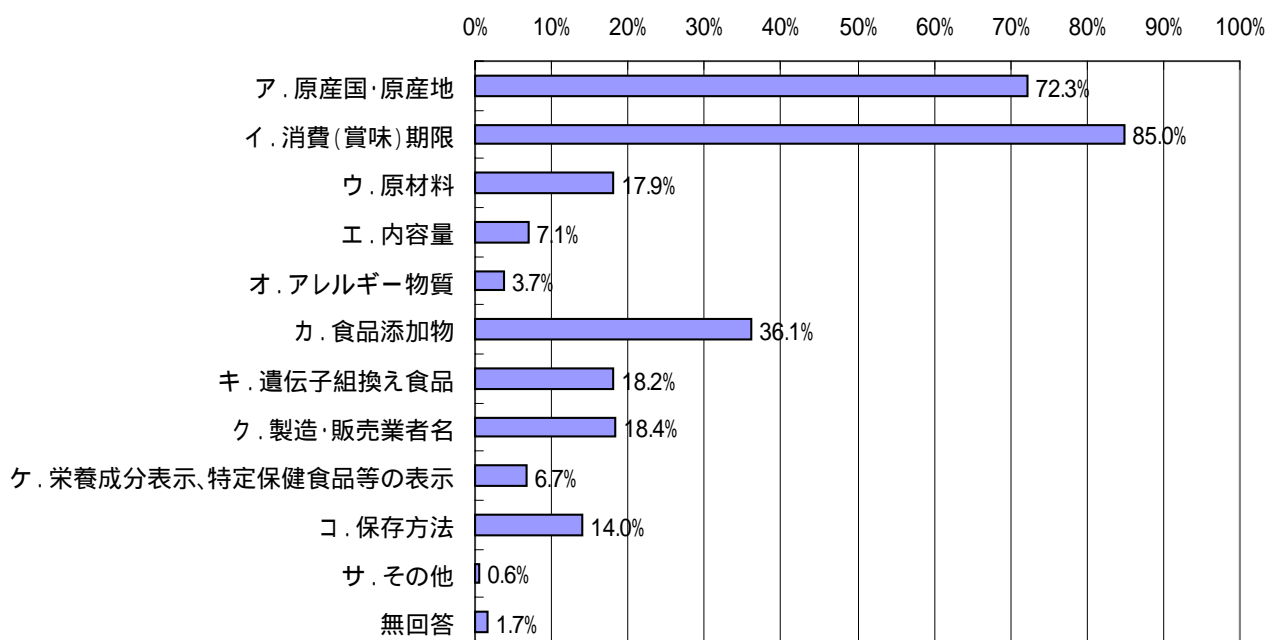
注)有効回答者数を100とする。

米及び農産物では、「ほぼいつも確認している」の割合が、他の食品に比べて低く50%以下となっているが、これは、国産品が多いことを前提に、米については、ブランド名だけを見ての購入、購入ブランドの継続性など、農産物については、一つ一つの商品に表示がされていないものが多いこと、見た目の品質、鮮度を重視することなどが影響しているものと思われる。

水産物、畜産物、加工食品では、表示を確認している割合が高いが、これは、ここ最近の様々な問題の影響もあって、表示中の原産国・原産地、賞味期限、原材料、食品添加物などをよく見ているのではないかと推察される。

男女別では、女性の表示の確認度合が高く、年代別では、どの分類の食品についても、50歳代、60歳代女性の比率が高くなっている。また、70歳代以上では、食品の種類を問わず、表示の確認度合が低くなっている。

(3) - 食品を購入する際、表示の中で特に気をつけているのはどの項目ですか。(3つまで選択可)



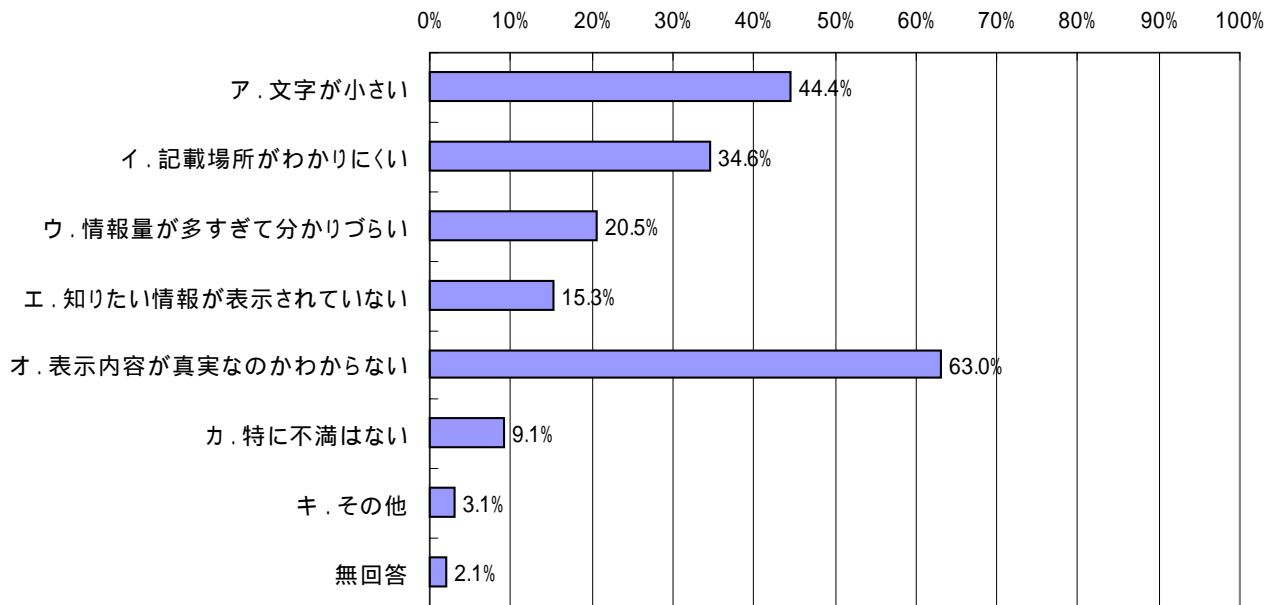
注) 有効回答者数を100とする。

男女、各年代を通して、「消費(賞味)期限」、「原産国・原産地」において7割を超える高い割合の人が表示に気をつけていると答えており、特に「消費(賞味)期限」では8割以上の人が気をつけているとしている。

設問(2) - で、「不安を感じている」との回答が多かった「食品添加物」については、この設問においても比較的高い36.1%となっている。

また、「遺伝子組換え食品」も18.2%みられる。

(3) - 食品表示について、不満に思うこと、改善して欲しいことは何ですか。下記の中からあてはまるものをいくつでもお選びください。



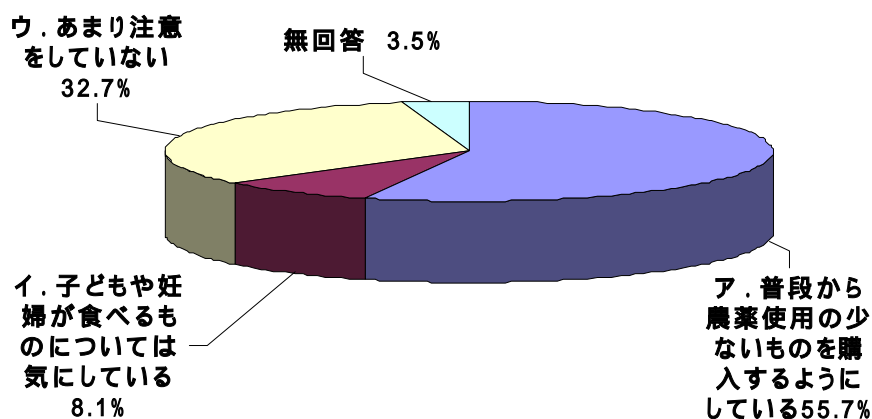
注) 有効回答者数を100とする。

男女、各年代を通して、「表示内容が真実なのかわからない」と回答した人が多く、全体では63%に達しており、表示に対する不信感があらわれている。

第2位の「文字が小さい」、第3位の「記載場所がわかりにくい」は、年代を追うごとに割合が高い傾向にあり、「情報量が多すぎて分かりづらい」、「知りたい情報が表示されていない」の相反するような項目も15～20%程度あり、表示の難しさを示している。

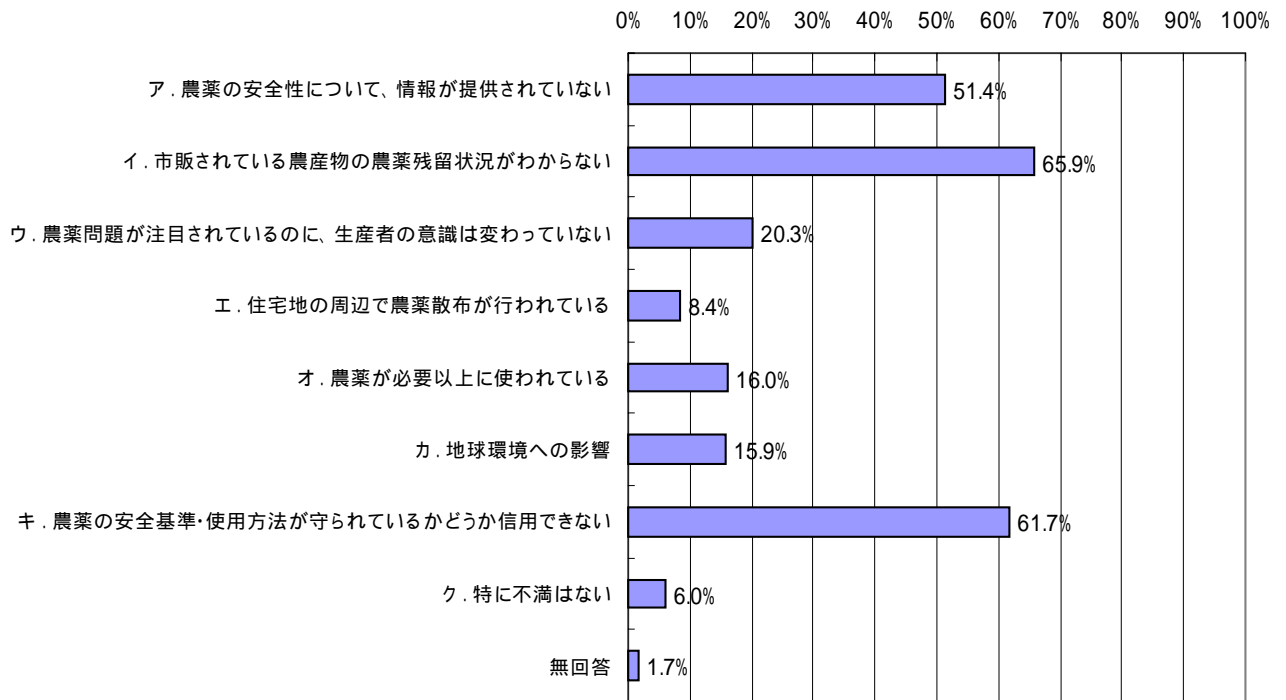
(4) 農薬について

(4) - 食品を購入する際、農薬の使用について気にしていますか。あてはまるものを1つだけお選びください。



農薬に関して普段から注意している、気にしている人は63.8%と多いが、あまり注意をしていない人も約3分の1を占めている。

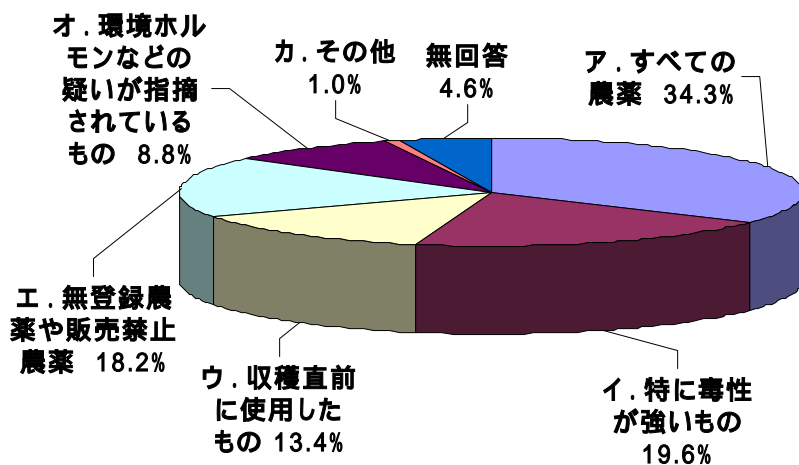
(4) - 農薬の使用や安全性について不満に思うことは何ですか。(3つまで選択可)



注) 有効回答者数を100とする

「市販されている農産物の農薬残留状況がわからない」65.9%、「農薬の安全基準・使用方法が守られているかどうか信用できない」61.7%、「農薬の安全性について、情報が提供されていない」51.4%の3つに回答が集中しており、情報提供による信頼の回復が課題となっている。

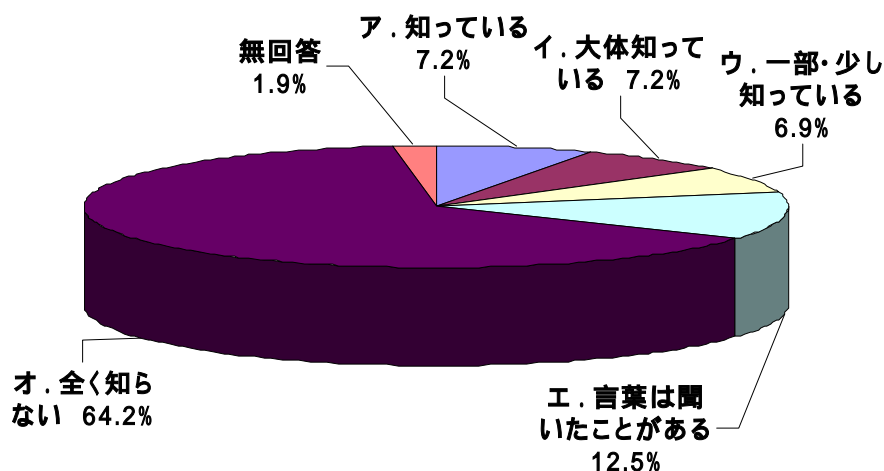
(4) - 次のうち、どの農薬の検査を強化して欲しいですか。あてはまるものを1つだけお選びください。



「すべての農薬」と答えた人は、約3分の1にとどまっており、農薬はすべて心配というわけではなく、特に健康への影響が懸念される農薬使用について、きちんと検査をして欲しいと考える人が多いように思われる。

(5) トレーサビリティシステムについて

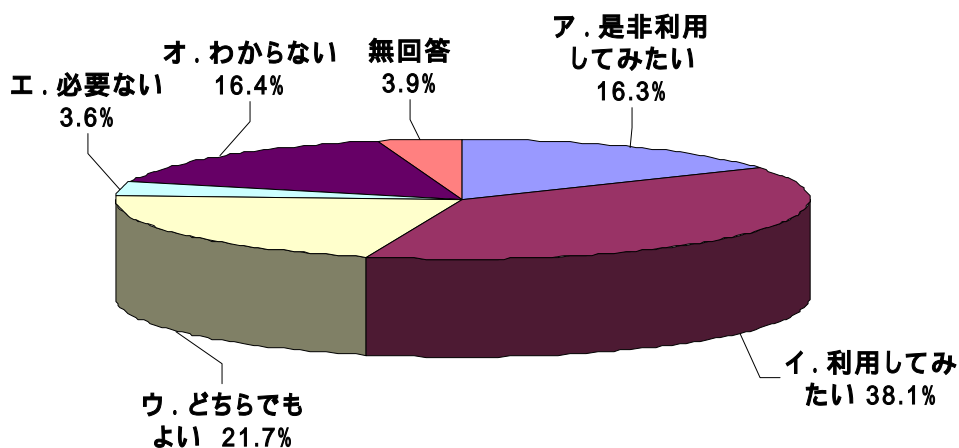
(5) - トレーサビリティシステムとはどのようなものかご存知ですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。



トレーサビリティシステムについては、「知っている」、「だいたい知っている」、「一部・少し知っている」を合わせて21.4%と、認知度はまだまだ低く、7割近くの人々が「全く知らない」と回答している。

男女別・年代別では、30～50歳代の男性で比較的認知度が高くなっている。

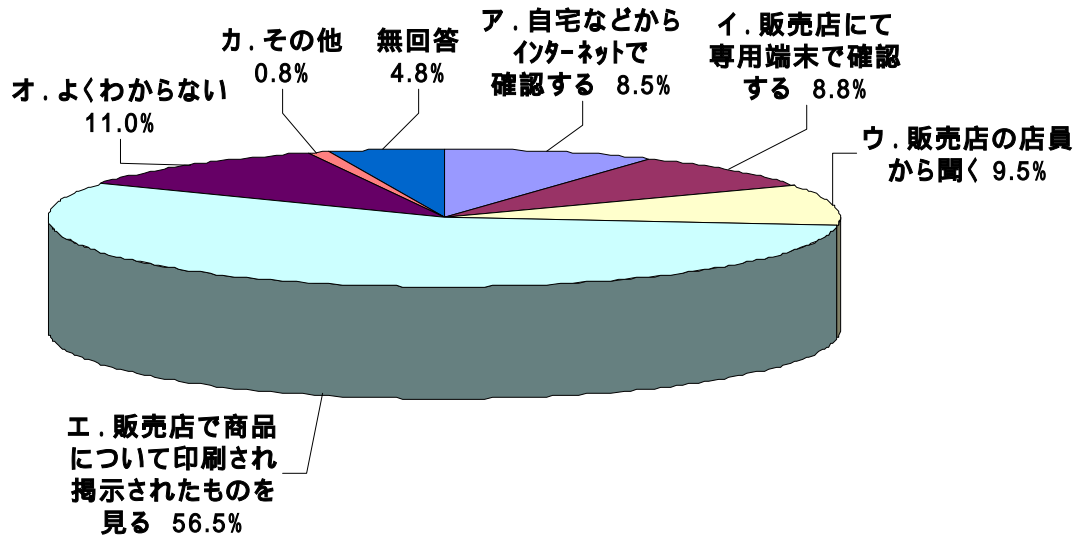
(5) - トレーサビリティシステムを利用して、食品の生産や流通の履歴などの情報を確認してみたいと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。



トレーサビリティシステムについての簡単な説明を加えての質問であるが、「是非利用してみたい」、「利用してみたい」を合わせると、半数を超える54.4%の人が利用に関心を示している。

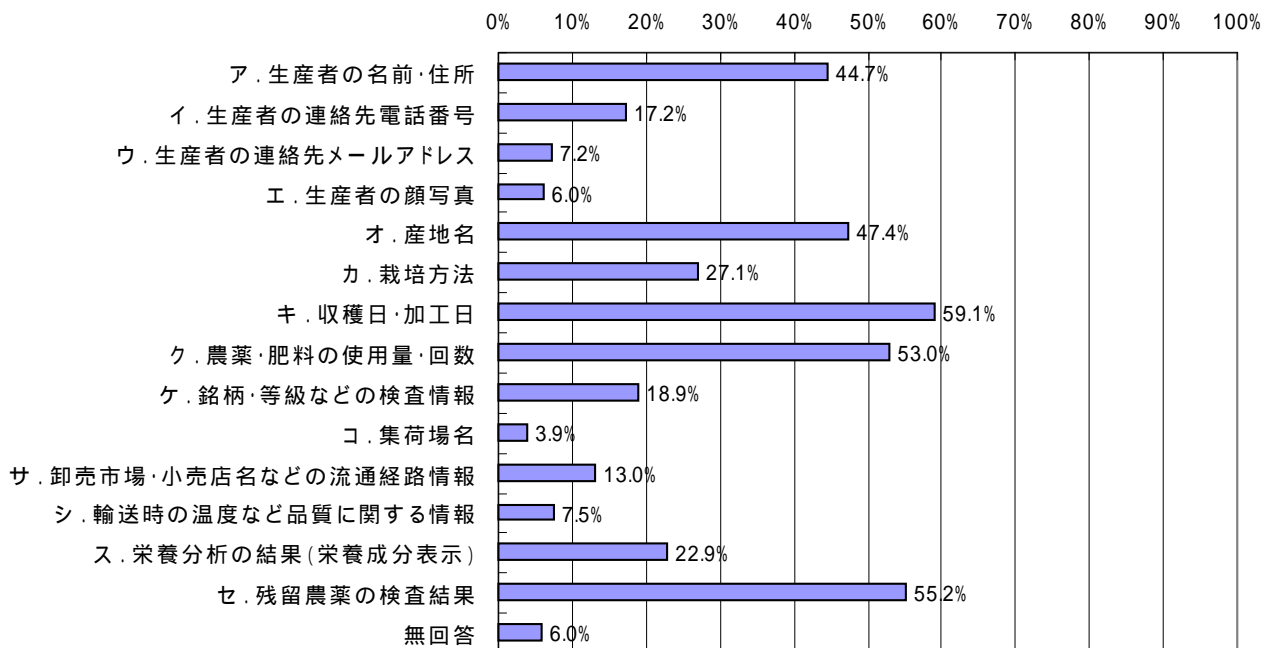
「必要ない」と考える人は非常に少ないが、認知度の低さからか、「わからない」との答えが16.4%みられる。

(5) - トレーサビリティシステムが導入された食品を購入する場合に、あなたが利用しやすい情報の確認方法はどれですか。あてはまるものを1つだけお選びください。



「販売店でそれぞれの商品について印刷され掲示されたものを見る」が半数以上を占めている。他の方法では、「自宅などからインターネットで確認する」及び「販売店の専用端末で確認する」がそれぞれ8%台にとどまっているが、若い世代ほど支持されていることもあり、今後のインターネットの普及、専用端末の整備により、有力な手段となることが予想される。

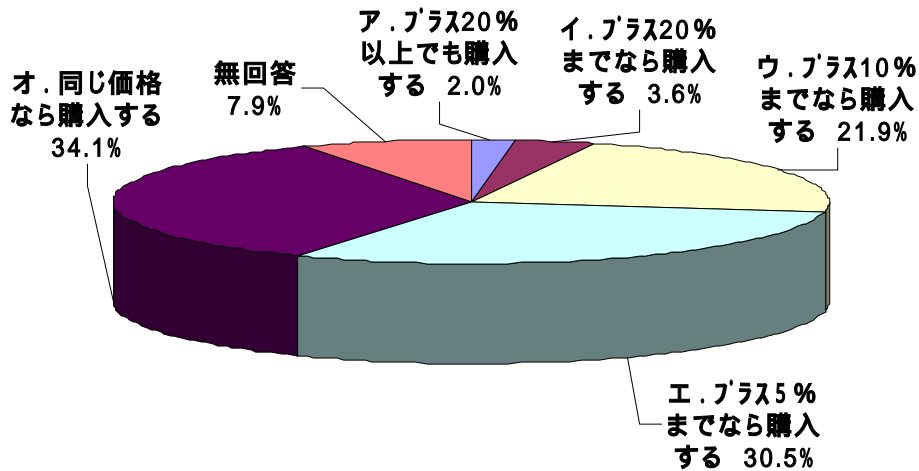
(5) - トレーサビリティシステムが導入された食品を購入する場合に、どのような情報が確認できると良いですか。(いくつでも選択可)



注) 有効回答者数を100とする。

ベスト3は、「収穫日・加工日」の59.1%、「残留農薬の検査結果」の55.2%、「農薬・肥料の使用量・回数」の53.0%の順となっており、次いで、「産地名」、「生産者の名前・住所」と続き、鮮度や安全性、生産者・産地への関心が高いことが示されている。

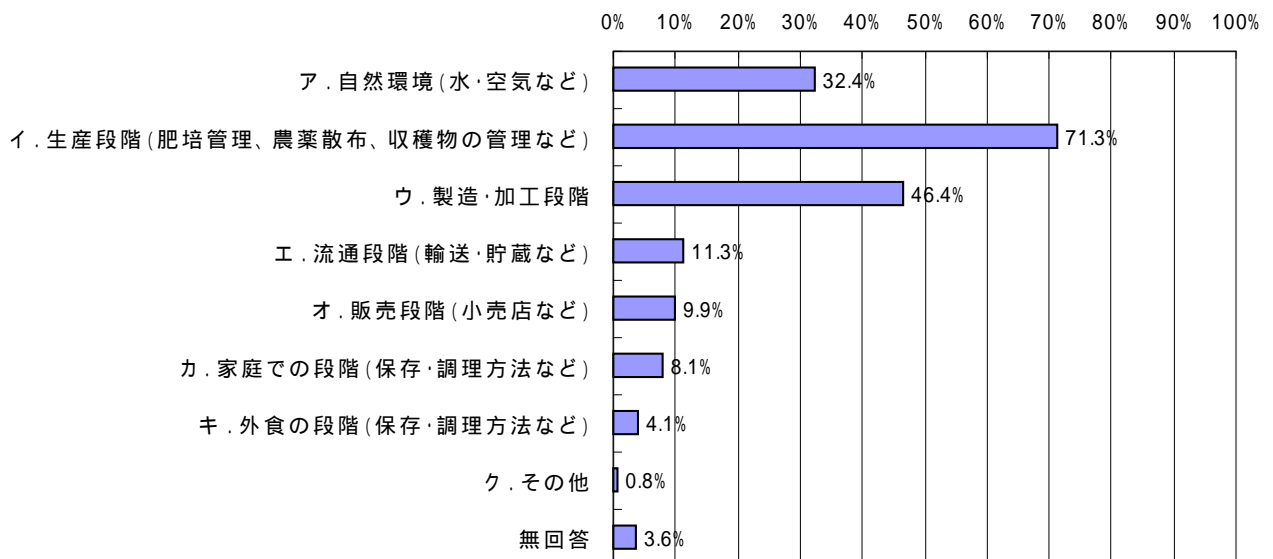
(5) - トレーサビリティシステムを導入するためには、コストがかかります。このシステムが導入された食品を購入する場合に、導入されていない商品と比べてどのくらい割高でも購入しても良いと考えますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。



「同じ価格なら購入する」が、約3分の1を占めているが、「プラス5%までなら購入する」との答えが30.5%、「プラス10%までなら購入する」が21.9%となっているなど、許容範囲に差はあるものの、安全・安心のシステム導入にあたって、多少価格が上がってもよいと考える人が6割近くを占めている。

(6) 食の安全・安心確保に必要なこと

(6) - 食品の安全性を確保するために改善が必要だと考えられるのは、次のうちの段階だと思われませんか。(2つまで選択可)

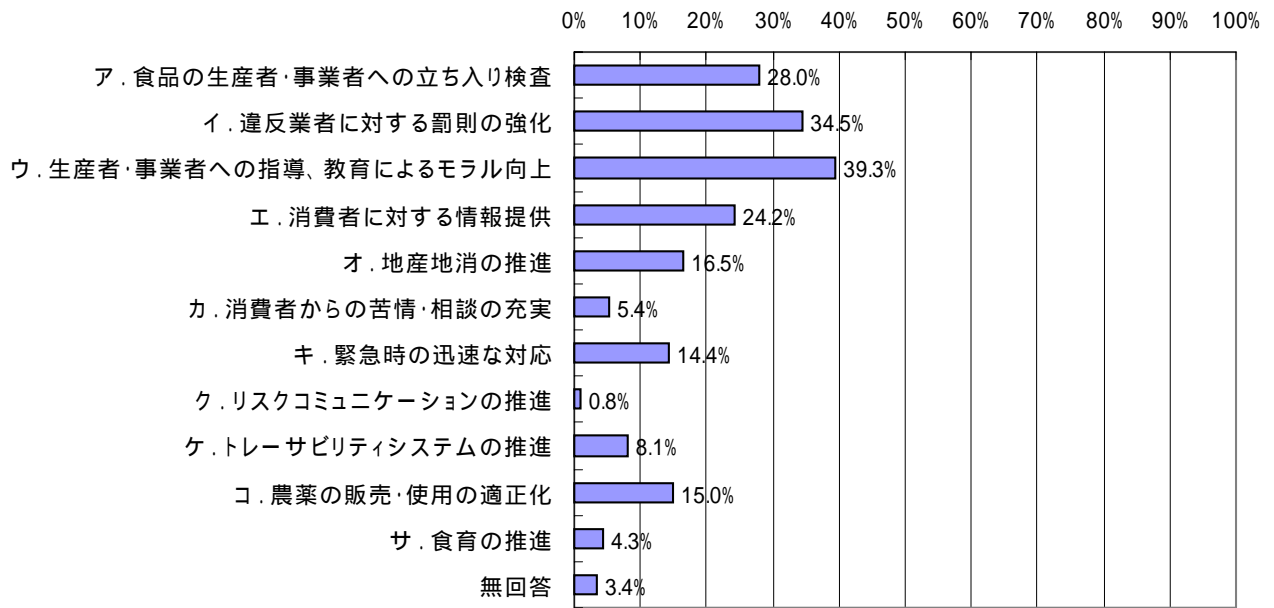


注)有効回答者数を100とする。

「生産段階(肥培管理、農薬散布、収穫物の管理など)」での安全性確保を求める割合が71.3%と圧倒的に多く、次いで、「製造・加工段階」の46.4%となっており、安全な農畜産物の生産に強い関心が寄せられている。

また、「自然環境(水・空気など)」も32.4%と比較的高い割合を示している。

(6) - 食の安全・安心に関して、あなたの不安を解消するために、望むことは何ですか。あてはまるものを2つ選んでください。



注) 有効回答者数を100とする。

不安を解消するために望むこととして、全体では、「生産者・事業者への指導、教育によるモラル向上」が39.3%、「違反業者に対する罰則の強化」が、34.5%、「食品の生産者・事業者への立ち入り検査」が、28.0%となっている。

男女別・年代別では、男性で「罰則の強化」、女性で「地産地消の推進」を、20～40歳代で「消費者に対する情報提供」を挙げる割合が比較的多くなっている。なお、トレーサビリティシステムについては認知度が低いいためか、不安を解消する方法としては、8.1%にとどまっている。